

季節のことば

日差しの厳しい夏。公園の木かげに入るとひやっと涼しく感じる。これは、木が直射日光をさえぎっているからだけではない。植物の葉は多くの水分を含んでおり、その水分を常に空気中に蒸発させて周囲の熱をうばっているからだ。木かげに入ると「ひやっ」と感じるのは、この大量の水分を肌で感

じているからだという。なるほど。また、植物は光合成によって常時酸素を放出しているわけで、これが人の気持ちを落ちつかせる働きがあるらしい。自然の持つ治癒力ですね。昨今は物騒な事件の多発で殺伐たる気分に陥りがちです。ちょっと木かげにでも入ってみませんか。

三笠NEWS

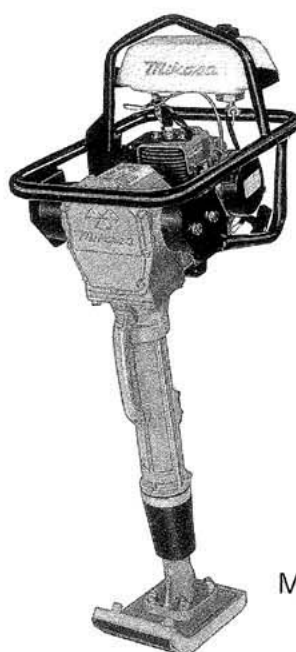
三笠ニュース

●あなたと三笠をむすぶホット情報●

PR月報/年4回発行
発行所 三笠産業株式会社
郵便番号101 東京都千代田区猿樂町1-4-3
電話03(3292)1411大代表 ファックス03(3233)0530



MVR-65W
(散水装置と水タンクはオプション)



MTR-35

小型軽量 高性能! '95三笠新製品発表

MTR-35 タンピングランマー

三笠のタンピングランマーはエンジン式としては重量53.5kgのMT-50Vから126kgのMTR-120まで6タイプ12機種を生産しており、ワイドバリエーションでユーザーのニーズに対応して参りましたが、近年狭い場所での作業が容易に出来る、MT-50Vよりもコンパクトなランマーをとのご要望があり、開発を進めて参りましたが、この度その成果がMTR-35としてデビューしました。

MTR-35はスリムなボディとコンパクトなハンドルが特長で、『壁際』、『下水管周辺等の狭い溝』あるいは『電柱の周辺』等、従来のランマーでは作業しにくい様々な現場を、楽に輾圧する事が可能です。

ハンドルの全長を短くした事により、狭い溝の中でも容易に機体の進行方向を変えられます。またガードフレームを標準装備し壁際の輾圧、溝の中の作業あるいは溝に機体を降ろす際の、マフラー及びエアクリーナーの破損を防止します。

MTR-35仕様

機体の寸法	全高 全幅 全長	1045mm 350mm 545mm
装 備 重 量		38kg
衝撃板の寸法	幅 長さ	150mm 270mm
衝撃板のストローク		40~55mm
打 撃 数		720~750(回/毎分)
打 撃 力		500~550(kg/毎回)
使用 エンジン		ロビンEC08GH 3.3PS 2サイクル

排気ガスの吹き出しは下方向に拡散式とし、溝の中の作業における排ガスによる土砂の吹上、並びにランマーの向きを変えた時のオペレーターへの排ガスの吹き掛けを防止しました。

ガイドシリンダーにはグリップを設けましたので、機体の積み降ろしや移動が容易に出来ます。輾圧深さは標準の状態でも約60cm、オプションのエクステンションシユースを使いますと、幅120mmの溝についても最大深さ1.4mまで輾圧可能です。

エンジンはフロート式キャブレターを採用しましたので、メンテナンスし易く、またガス欠させた場合でも容易に再始動することが出来ます。

既に三笠タンピングランマーを愛用していただいている皆様に於かれましてもMTR-35タンピングランマーを併用して頂く事により、より良い作業性が実現される事と思います。このMTR-35タンピングランマーをご愛用頂きますようお願い申し上げます。

MVR-65Wバイプロコンパクター

ご好評頂いております三笠バイプロ

MVR-65W仕様

機体の寸法	全高 全幅 全長	880mm 350mm 860mm
装 備 重 量		67kg
輾圧板の寸法	幅 長さ	350mm 460mm
速 度		0~21m/min.
振 動 数		5,000V.P.M.
遠 心 力		1400kg
使用エンジン		ロビンEY15D 3.5PS/4000rpm 4サイクル

コンパクターのシリーズ化として軽量コンパクトなMVR-65Wバイプロコンパクターが新たに加わりました。

このMVR-65Wバイプロコンパクターは軽量コンパクトなので、1軸プレートと同感覚で持ち運びが出来、容易に作業が出来ます。

前後進の切り換えは、MVHシリーズで耐久性、信頼性のある切り換え機構を用いていますので、レバー1本の操作で滑らかに前進、中立、後進と思いのままに操作が出来ます。特に側溝、路肩、歩道等の狭い場所での輾圧、更にアスファルト舗装、パッチング等の工事においては迅速に作業が出来、お客様のニーズに充分お応えできるものと確信しております。

また三笠設計の基本であります『オペレーターの安全性』を重視し、完全密閉式のベルトカバーを採用しております。このベルトカバーはオペレーターの安全を守るだけでなく、ベルトの小石噛み込みを防ぎベルト寿命を大きく延ばします。更に本機の一点吊りフックガードに、三笠ランマーで好評な大型Wエアクリーナーを標準で装備しておりますので、防塵効果は大変良く、エンジンのライフを大きく延ばすなど、数々の優れた特長を持っています。

尚オプションとして、水タンク(13l)付散水装置も用意しておりますので、作業の用途に応じてお選びいただけます。

すでに高い評価を頂いているMVHシリーズの重量級バイプロコンパクターと合わせて、ここで紹介させて頂き



窓からの想 京谷達也

おいでよププール/仕事を終えた土曜の夜/パリの職工が女房に言った/デザートがわりに/カフェコンセルに連れていってやるよ/おいでよププール/おいでよププール/俺は歌を聞いていると/好きになってしまうんだよ/ (永瀧達治訳)

ププールは雌鶏の意味で「コケッコちゃん」という感じ。今から百年前、十九世紀末のフランスで最も人気が高かった歌手マイヨルのヒット曲だそうである。休日の昼下がり。シャンソン全史の部厚い翻訳書を「読む」というよりは「見て」いたら興味にのって思わず時を過ごしてしまった。フランス語へのあこがれから始まってその魅力をいくらか味わえるようになった頃、シャンソン喫茶の常連になっていたのは遙か昔のことでもあり又つい昨日のことのようでもある。

訳詩でなんとと言っても記憶に鮮やかなのは上田敏の『海潮音』永井荷風の『珊瑚集』そして鈴木信太郎訳詩集。戦争中には至上のものと教え込まれていた日本文化が急にみすばらしいものになり果てて欧米文化への憧れと賛美が若者の心をとらえていた。そんな時代、恩師鈴木力衛先生から教わったアヌイやジロドウの現代フランス演劇の持つフランス語の美しい響き、生きることの素晴らしさ。懐かしいア・エ・セ(芸術と文化の会)日生ホールの例会では最新の映画が上映され、文学、演劇、絵画が語られた。青春の日々スポンジが水を吸い上げるようなものだった。

会社に入って、いつしか商売人になっていった。あいつぐ出張の合間、本の街に住む縁か、菟書に明け暮れ、そして家の改築を機に一括処分した。ところが又々買い集めだしたのは何の因果か、菟書散書と言うが、まこと書物の持つ魅力か、生きている間の不思議の一つではある。

ましたMVR-65Wバイプロコンパクターも是非ご愛用いただけますようお願い申し上げます。

第37回東部地区三笠代理店会開催

去る5月17日、18日の両日、伊豆大仁温泉『大仁ホテル』に於いて「第37回東部地区三笠代理店会」が東部地区代理店、輸出関連商社として報 挨拶する京谷社長道関係の方々を多数お招きして盛大に開催された。



を始め、黄色いパイプレーターとしてご愛顧頂いているマイコンパイプレーター用の新型コントローラーVCW-1A型、更に全油圧式のMRH-7D型振動ローラー等多数の製品が発表され、技術研究所の担当者よりその特長・仕様説明及び実演が行われた。引き続きコンベンションホールに場所を移し、第二部「代理店会議」が海外営業部清水次長の司会進行により開催された。

冒頭に営業本部長高野常務より代理店会開催にあたり、ご臨席下さった皆

様に、感謝とお礼の辞を開会の言葉として述べ、その後京谷社長より「37回という三笠の伝統である代理店会にて皆様の元気なお声を共々聞ける喜びと、本当に長い間ご愛顧賜っているのだなあとと言う気持ちが切々と胸を打ちます」と今日の感激を述べ、更に「日本経済、社会、政治状況が全く混沌とした状況下にある中、我が社は幸いに急成長とはいきませんでした、常に堅実経営を考え特定の専門分野の老舗として、又パイオニアとして第一シェアを続ける為新製品の開発や従来商品の改良に努めるかたわら皆様方のお役に立てる営業力の強化、サービスの充実を心がけて参りました。おかげをもちまして皆様の根強い暖かな援助とご助力を持ちまして、まずは順調な成績を続けて今日まで過ごさせて頂きました。誠に感謝に堪えません。三笠が常に新技術の開発と改良に日夜を問わず励んでいる事をご理解頂ければこれにまさる喜びはございません。」と挨拶。

引き続き技術研究所長松下専務より

製品説明、その後活発な質疑応答が行われ、最後に館林工場斎藤工場長の挨拶で閉会した。

午後7時からは宴会場に場所を移して第三部の懇親会が仙台営業所松沢所長の進行でスタートした。三笠産業(株)京谷副社長より歓迎の挨拶、代理店を代表して中道機械産業(株)松尾代表取締役よりご祝辞を頂戴し、次いで伊藤忠商事(株)石橋部長の乾杯により宴が始まり、終始和やかな歓談が続き、春日部工場小森工場長のお礼の言葉をもって盛会裡に終了した。

翌日は観光コースと親善ゴルフ大会の二手に分かれて親睦会が行われた。観光コースはこの時期には珍しく、青空の下雄大な姿を見せた富士山を仰ぎ見つめ観光バスで西伊豆のドライブを楽しんで頂いた。ゴルフ組は大仁カントリークラブにて最高のコンディションの中熱戦が繰り広げられた。結果は優勝が(株)共和建商増子社長、ベストグロ賞は(株)深見部長でした。

横浜営業所 青木記

今年4月3日から9日にかけて、第24回バーマ(ドイツ語で建設機械の意味)展がドイツ・ミュンヘンで開催された。この建機展は3年毎に開催され、その規模は総展示面積40万㎡以上、そしてドイツ国内はもとより、30以上の国から1,400を越える企業が参加、会期中は109ヵ国から延べ32万2千人以上の人々が訪れる(前回1992年実績)という展示会である。

日本でも幕張メッセに於いて、定期的に建機展が開催されているが、参加企業、来場者共にそれを大きく上回る、文字通り建設機械に関する催しでは、世界最大と言われる展示会である。この催しに三笠産業は1986年に初めて製品を紹介して以来今回で4回目の出展であり、弊社の技術部からは筆者を含め2名がこのバーマ展に、詰員として参加する機会を与えられた。

展示会に先立ち、欧州営業担当の2名と私を含めた3名は、設営準備の為3月30日(日)に成田を出発した。途中パリで1泊し、31日(金)の朝ミュンヘン空港に降り立つと、レンタカーを駆り、アウトバーンを一路会場へと向かった。

ミュンヘンは我々が到着する1週間ほど前に猛吹雪に見舞われ、空港は閉鎖、アウトバーンも徐行運転を余儀なくされたということで、市内には除雪された雪がまだにうず高く積まっていた。この吹雪の影響で各社ともにブースの建設の為の資材や製品の搬入が大幅に遅れ、開催3日前の今日になっても展示会場らしさは感じられず、その中で作業員達が必死に各ブースを建設しているという状況であった。

弊社のブースも例外ではなく、展示スペースには建設資材が一面に散乱し、足の踏み場もない様な有り様であった。この状況を目の当たりにした我々は、暫し呆然としたが、早々に製品搬入を諦め、ブースの建設責任者に完成まで

1995年 第24回バーマ展 出張記 雪、雨、そして快晴！……

の時間を確認し、あとはドイツ人作業者の仕事ぶりに希望を託し会場を後にしたのであった。

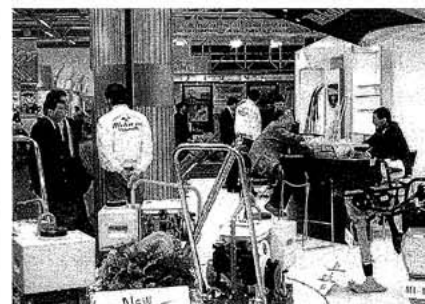
明るく4月1日(土) 昨夜半から降り始めた雪は、雨に変わっていた。会場は徹夜の建設作業によりブースも幾分展示場の体を感じられるようになったが、製品の展示スペースは未だにあちこちに資材が積まれていた。そこでこの日も午前中の製品の陳列を断念し、午後改めて会場を訪れ、展示のための作業を進めることに決定した。午後の作業を進めるにつれ、徐々に日が沈み、会場の薄暗い明かりの下で黙々と陳列を進めていくうちに、果たして開催までに完成するだろうかと言う不安と、何としても間に合わせなければならないと言う、焦りの感情が入り交じりこの日は時間と体力の許す限りの設営作業となった。

4月2日(日)の朝 昨日までの荒天が嘘のように晴れ渡っていた。また設営の慌ただしさもこの日の朝になるとどうにか落ち着きを取り戻しつつあった。徐々に形が整い製品もセットし、完成に近づいた我がブース。同様に準備も最終段階に入り、機械の並び始めた他社のブースを眺めると、昨日までの喧噪は、遙か昔の出来事のように思われた。そしてミュンヘン空港に弊社副社長、館林工場の十九浦部長、お取引先のサン・エンジニアリング(株)吉田社長、住商機電貿易(株)玉井部長及び秋谷次長を出迎え総勢8名となった我々は、ようやくバーマ展の朝を迎える運びとなったのであった。

ワッカー、ダイナパック等世界各国から、数多くのメーカーが最新の機械を紹介するこの展示会は、建設機械の



屋外展示場(上)と三笠の小間(下)



設計に携わる人間にとっては関心の的である。筆者もバーマ展の存在を知って以来是非一度は訪れたいと、ずっと憧れていた催しであり、その夢が叶ったのであった。

4月3日(月) 快晴、ワイシャツ一枚でも汗が噴き出すような日差しの下、いよいよバーマ展の始まりである。静かなたたずまいのミュンヘン市内に忽然と現れた感のある展示会場、その入口の左右にあるシンボルタワーの上には万国旗がはためき、会場の雰囲気盛り上げていた。

弊社のブースのある屋内の会場は全部で25の建物で構成され、そのひとつが日本の幕張メッセ屋内展示場の1/3~1/2の広さをもっているように思われた。屋内の各会場間にはシャトルバスが運行され、会場内にはレストランはもとより、銀行、郵便局が設けられ、さながら一つの町を構成している感があつた。

屋内の会場には建設機械メーカーはもとよりエンジン、部品(防振ゴム、ケーブル、シートetc)プラントメーカー等、合わせて1,000近くのメーカーが小間を並べていた。その中には、実物そのままの巨大なプラントを設置し、実際に鉄筋を曲げたり、あるいは製品の製造工程の実演を行う企業が数多く見られた。また屋内の展示場に於いてはエンジン式機械の実演は禁止されていた。そこでそのような機械は、テーブルに載せて回転させたりと、少しでも動きのある展示を行い出来る限り来場者の目を引く工夫がされていた。

屋外展示場も、後楽園球場が4つは十分に作れるのではないかとと思われる広大な敷地を89のブロックに仕切り、そこには569の企業がひしめき合っていた。屋外の展示場に足を踏み入ると、入場者を威嚇するかのように巨大なバックホーがバケットをもたげて出迎え、タワークレーンが立ち並んでいた。その下では各メーカーの趣向を凝らしたデモスペースを、ある所ではホイローダーが疾走し又ある所ではロードローラーが轟音をたてて走り回り、あるいはバックホーが地面を掘り返したり、そしてそれらの作り出した埃と騒音が、先ず訪れた人を圧倒した。

国内でも幕張メッセに於いて定期的に建機展が開催されているが、屋内展示の為、この様な迫力のある展示や、実際の作業を再現した様な実演は不可能である。又過去においてはただ機械を並べるだけの展示が多く、バーマ展の様な動きのある陳列が見られるようになったのは最近のように思われる。

次に今回の展示会では1~1.5tクラスの搭乗型ローラーが目玉だったが、全体の傾向として既製の搭乗型ローラーに対するROPSの設置、あるいはプレートコンパクターに対するベルトカバーの密閉化、エンジンオイルのノ

、ドレン専用機構の設置など、新製品、新機構の開発よりも、ヨーロッパに於ける安全基準『CE規制』への対応の為、既販売機種に対する改良について重点を置いたように思われ、弊社に於いて「MVC-60CE、72CE」型プレートコンパクターでこれに対応した。又、この様に『CE規制』への対応に追われている各メーカーの状況にあって弊社が今回展示した新製品「ディーゼル、並びに4サイクルガソリンエンジン搭載ランマー」「MVH-502型バイプロコンパクター」「油圧式ハンドガイドローラー」そして「マイコンバイブレーター」は、ディーラー、ユーザーのみならず他競合メーカーからも注目を集めていた。

4月4日(火)、5日(水) 初日同様の快晴に恵まれ、我を忘れて会場内の各ブ

ースを駆け巡り、気がつくと言った間に帰国の日の朝を迎えていた。バーマ展を訪れて感じたことは、日本国内に於いての競合メーカーは数えるほどしか存在しない。しかし海外に目を向けると、何十という競合メーカーが存在し、各社とも毎日熾烈な競争を繰り広げ、遅れをとったメーカーは消えていくということである。この中で今後三笠産業が存在し続けるには品質を保ち続けるのはもとより、他社より性能的に優れ、しかも価格競争力のある製品を、しかも商機を逸しない様短時間で開発することが必要と思われた。設計者として今回初めてバーマ展を見る機会に恵まれたが、以上の貴重な体験を今後の仕事に活かしていかなければと思った次第である。

第二技術部 西牧記

西部地区三笠新製品発表ブロック会 広島、小倉、名古屋、大阪で開催



挨拶する小野社長 ロック会」が各地域の主要取引先合計130数社のご参加を得て開催された。

まず、特設野外展示場で第一部「三笠新製品実演説明会」が三笠建設機械(株)各ブロック担当所長の司会及び三笠産業(株)技術研究所松下専務取締役の進行により行われた。

坂本第一技術部長より新製品の説明と紹介が始まり、大容量の高周波インバーター「FV-6K型・10K型」、小型軽量で強力な遠心力の型枠自振モーター「新KJシリーズ」、太もの(VHW-62・72)マイコンバイブレーターのコントローラー「VCW-1A型」が特徴と共に紹介された。引き続き、磯部取締役第二技術部長より、小型軽量のタンピングランマー「MTR-35型」、小型軽量でモダンなデザインの前後進バイプロコンパクター「MVR-65W型」、大型前後進油圧バイプロコンパクターの新機種「MVH-502型」等が新製品として紹介されると共に、世界一・二の生産量を誇るランマーのメーカーとして次世代をにらんだ4サイクルランマー及びディーゼルランマーが参考出品として紹介された。

また、今年7月から施行されるPL法及びヨーロッパに於ける安全基準に対応した全閉ベルトカバーを採用した「MVC-60CE」や、好評を得ているコンクリートカッター「MCD-214」に216・218型と同じ走行装置及び積み降しに便利なロック装置を追加した「MCD-214DX」が改良品として紹介された。

続いて会場をホテル内に移し、第二部「ブロック会議」が開催された。



最初に挨拶に立った三笠建設機械(株)小野社長は、冒頭にブロック会開催に際してご臨席下さった皆様にお礼と感謝の辞を述べ、今年1月の阪神・淡路大震災に於ける被災されました皆様方へのお見舞いを申し上げました。

続いて、幸いにも取引先各社におかれましては、社屋にごく一部のご損壊はありましたものの何人身事故もなく大事に至らなく安堵した事、及び三笠建設機械(株)の被災も殆ど被害らしきものもなく、翌日より平常業務に就くことが出来た無事を伝え、95年度の新製品の発表展示会を主眼とした三笠新製品発表ブロック会を開催し、新製品を披露して批判と併せて販売の更なるご協力を賜る本会の主旨を述べました。

建機一般の需要は、平成5年下期まで厳しい低迷が続く、ようやく平成6年上期が上昇への転換期と捉え、本年も緩やかな上昇基調が続くと考えていた矢先の大震災であった事に対し「この大震災により確かに近畿圏におきましては復興需要が今後見込まれましょうが、逆に復興財源の確保のために本年の一般公共事業関係費を各地一律に5%カットするとも言われています反面、円高不況対策により公共工事の上積みと併せて補正予算の大型化と早期執行の要望もありますものの全然予測がつかない状態となりました」と現状を伝え、「ただ、一昨年より機会あるごとに担当者より繰り返し説明を申しあげております重機圧用のMVH-302型バイプロコンパクターと防音型タ

ンピングランマーMT-68SGK型につきましては、今後まだまだ大きな潜在需要があるものと確信致しております。この商品は、近畿圏では二府四県に涉って浸透しております、納期におわれているのが現状ではありますが、三笠の大きな柱に育って参りました。この機にもう一度ご着目をしていただくと同時に、積極的なPRとご販売を切望するものであります。何卒ご協力下さいますようお願い申し上げます」と述べた。

次に、三笠産業(株)京谷社長が挨拶に立ち、ご臨席の皆様へ三笠製品の販売やレンタル機としての採用に感謝とお礼を申し述べ、年初からの阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件を始めとするオウム真理教をめぐる恐ろしい疑惑の数々、そして泥沼の円高、株価の低迷等々、日本経済、社会、政治情勢はまったく混沌とした状況下、5月末に迎えた決算に於いては順調な業績をあげられた事に対し重ねてお礼を申し述べた後、「常に堅実経営を考え、特定の専門分野に於きます老舗として、又反面、パイオニアとして第一シェアを確保するため、常に新製品の開発や従来商品の改良に努められた方々皆様方のお役に立つ営業力の強化とサービスの

充実、三笠建設機械(株)さんともども心掛け実践して参ります」と挨拶した。

続いて会議に出席した三笠建設機械(株)及び三笠産業(株)の社員紹介がされ、引き続き、技術研究所松下専務より新製品の詳細及び紹介しきれなかった東京湾横断道路のセグメント打設用大型油圧式テーブル振動機や同横断道路中央トンネル現場に於ける二次巻コンクリート打設に使用されたFJH-550型高周波自振モーター、コンクリート二次製品工場向けに開発されたマグネット式テーブル振動機等の特殊製品を含んで、スライド投影を交えて三笠製品の説明が行われた。

その後、席を改め『第三部懇親会』が、三笠建設機械(株)窪田取締役の開宴のこたばによりスタートした。来賓代表のご挨拶及び乾杯へと続き、各ブロック会とも同じ地域の方々のご出席の為か和やかな雰囲気の中行なわれ、歌自慢の方々のカラオケも披露された。出席した三笠スタッフもご来席頂いた方々全員に歓談が出来、三笠産業(株)高野常務取締役の閉会のこたばと万歳三唱によって各ブロック会とも盛会裡に終了した。

西販課 川島記

三笠春日部工場 工業団地進出10周年記念パーティー



春日部工場は昭和37年に、現在は部品サービスセンターになっている春日部市緑町で操業を開始、以来春日部市の歴史と共に発展して参りましたが、昭和60年5月に現在の豊野工業団地内に移転し、当時最新鋭の設備を整え操業を開始し、昭和63年12月には組立棟及び組み立てラインを増設し生産効率の向上を計って参りました。

工業団地進出の経緯は、昭和46年春日部市と市内の中小企業が協力し、春日部市商工会工業団地対策委員会が発足、長い年月をかけて建設が進められ、現在64社が操業しております。

三笠春日部工場も昭和60年竣工以来、ちょうど10年目の節目を迎えるにあたり、今までのお礼と今後より一層の発展を願い、春日部市長をはじめ日頃お世話になっている春日部市内の方々や、工場の発展にご助力頂いている協力会社の方々約200名をお招きし、去る4月14日、春日部市高砂殿に於いて三笠産業春日部工場の工場進出10周年記念パーティーを盛大に執り行いました。

午後4時、小森工場長の開会の辞で始まり、京谷社長のご挨拶、また多くの来賓の方々よりご祝辞を頂きました。ナンセンス・トリオの進行によりゲー

ムなどのアトラクションが行われ、午後8時30分、和やかな雰囲気の中に閉会となりました。

春日部工場 長谷川記

北海道三笠レンタル会 技術研修会を開催



北海道三笠レンタル会の今期事業計画の一環として4月10日から2週間にわたり道内6ヵ所(函館、苫小牧、札幌、旭川、北見、帯広)に於いて技術研修会を開催致しました。

北海道地区に於いてはローラーの販売が多いこと、またローラーの労働災害の中でもハンドガイドローラーの災害も多いこと等から、今期は「安全衛生特別教育規定」に基づきローラー運転特別教育を行いました。

研修会のご案内を差し上げた直後から問い合わせが相次ぎ、参加者は合計234名に及び、会場を変更するほどの盛況でした。

研修会では雪、雨にたたられて皆様には大変寒い思いをさせてしまいましたが、皆様方真剣に取り組んで頂きましたことを感謝致します。

札幌営業所 池尻記

北海産業株式会社 移転新築落成



伊藤社長と新社長

北海道地区の代理店として永年にわたりご活躍頂いており、又北海道三笠レンタル会の初代会長として大変お世話になりました北海産業株式会社様(本社 苫小牧市あけぼの町2丁目2番1号 伊藤武史社長)に於かれましては、この度、念願でありました本社社屋の移転新築をされました。

想い起こせば今から32年前、北海電機としてご当地に産声を上げ、地の利を生かして船舶の電機関係に携わる一方、陸上に於きましては土木、建築関係の機械も手掛けておられました。その後建設機械のレンタルに主眼を置き、現在では道内13箇所の営業所を擁するまでにご発展されました。

工業団地内の新社屋は最新の断熱効果を配慮した鉄骨造り3階建て、延べ床面積860㎡。そして駐車場を挟み880㎡の倉庫も新築されました。その3,000坪の敷地は今までの第二センター内で国道36号線に面し、お客様にとって非常に利便性の高い立地条件となっております。

5月29日の竣工披露パーティーには主要取引先約150名が御招待頂き、弊社からは京谷社長が出席させて頂きました。席上、伊藤社長よりその間の感謝のお言葉とこれを機に役職員一同心新たに、よりお客様のニーズに合わせた機械ときめ細かいサービスを目指すという強いご挨拶がありました。又御来賓を代表され、工事を担当された地元、山口工業所山口会長よりスタート時のエピソードなどを交えたお話、そして北海道リース業協会の片桐会長(片桐機械㈱代表取締役)より「我々協会

員の良き指導者であり、そして誇りである」と祝辞を述べられた後社員の方々と交えて祝宴に入りました。

今後とも北海産業様様の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

札幌営業所 東山記

宇建機工(株)創立25周年 式典盛大に開催

わが社の栃木県

の代理店でありま
す宇建機工(株)様
(本社 河内郡河内

町白沢1825-2

社長 森田藤伸氏)

に於かれましては

この度めでたく創

立25周年を迎えられ、これを記念して

去る5月27日ホテルニューイタヤに於

いて主力仕入先、ご来賓約120名を招かれ、

盛大に記念式典並びに祝賀会を開催されました。

先ず式典では森田社長より挨拶があり、

同社の創立から現在までの経過と

取引先各社への心からの感謝の意が述べられ、

続いて「この25年間当社の基本理念として販売・レンタル・サービス」という3本柱、

また会社・顧客・仕入先の成長を願う『三体共栄の精神』

を掲げてまいりました。今後も地域社会に貢献するよう努力していく所存です。」と心強く述べられた。

引き続き祝賀会が催され、ユアサ商事(株)中西本部長の祝辞の後、日熊工機(株)島村専務の乾杯の音頭でパーティーに入った。場内では宇建機工さんの社員全員と取引先メーカー、商社各社が和やかに歓談、盛会の内に終了した。

同社は県内を10営業所で網羅され、地元密着の営業をモットーとしており、お客様からも絶大な信頼を得ております。三笠産業としても販売、レンタル機に永年にわたって大変お世話になっており、改めて感謝する次第です。

森田社長様を始め社員の皆様方の今後益々のご発展を心からお祈り申し上げます。三笠からは京谷副社長、佐潟



挨拶する森田社長。

部長と小生が出席して心よりお祝い申し上げます。ありがとうございました。

北関東課 高橋記

東京三笠レンタル会 館林工場見学会開催



1995年3月28日(火)・29日(水)の両日、東京三笠レンタル会の方々に於いて頂き三笠の主力工場の一つである館林工場の新ライン見学会が行われました。

当日は風の強い日でしたが晴れ渡った青空をバックに白蓮の白い花が目目に染み入るような良い日和のなか三々五々工場にお集まり頂き、13時より新製品説明会が開始されました。始めに京谷副社長が開会の言葉、次に斎藤工場長が歓迎の言葉を述べ、続いて東京三笠レンタル会副会長である宇建リース(株)小野寺社長よりご挨拶頂きました。工場内の特設会場にて行われた新商品説明会では、エンジン寿命が伸びるダブルクリーナー付きMT-50W、MT-68W、MT-70Wランマー、次に高効率、重転圧、取り回しが軽快に出来るMVH-302DSA、402DSAパイプコンパクター、続いて軽量、強力、焼けない等高機能を搭載したマイコンパイプブレーターシリーズの説明が行われました。最後に小型パワートロウエル、フロアスクレーパー等の新製品の説明が行われ、実際にお客様に機械を運転操作して頂く等お手を触れて頂き性能の良さを体感して頂きました。

引き続き工場見学に移り、先ず隣接の物流センター内にある高さ7メートルほどの移動式ラックに製品が整然と積み込まれ静かに重々しく動く様子を見学。次に最大月産3,000台のランマー組立をこなす組立及び塗装ライン、完全防音の試運転室を通りマイコンパイプブレーターや高周波パイプブレーターの組立、試運転ライン、部品加工中のマシニングセンター群等を見学して頂きました。

夕刻からは市内のレストランで懇親会を開催しました。高野常務より開宴の言葉、新和機械(株)高島社長に乾杯の音頭をお取り頂き会員の方々それぞれに旧交を温め親しくお酒を酌み交わすうちに夜も更け、常盤工業(株)風間社長の中締めでお開きとなりました。

翌29日は唐沢ゴルフクラブ三好コースにて親善ゴルフ大会が開催され、(株)レンタルシステム埼玉の田代社長が優勝、三和リース(株)の西垣社長が準優勝、ベスグロはコーエイ(株)高屋社長でした。お忙しい中を遠路はるばるお越しいただき有り難うございました。

長野課 小野記

三笠流 忍法猿楽流



出ました!出ました!
小型化軽量化の決定版



東北三笠レンタル会 経営者セミナー開催



今回で第3回目となった経営者セミナーが4月11日(火)仙台市内の青葉通りに面する仙台第二ワシントンホテルにて開催されました。

始めに特設会場にて新製品及び主力製品の発表会が行われ、引き続き会場を移し経営者セミナーとなりましたが、今回も多数の会員の皆様に出席して頂き、総数52社となりました。始めに東北三笠レンタル会福田会長(幸和リース(株)代表取締役)より挨拶を頂き、続いて京谷副社長より挨拶があり、松下専務から新製品及び推奨機種の説明がありました。質疑応答の後は建設新聞社編集長白川先生より阪神・淡路大震災の影響について講演。講演終了後は懇親会となり、東北三笠レンタル会佐々木副会長(㈱イブキ産業代表取締役)による乾杯の音頭で始まり、大いに盛り上がりしました。

翌日はゴルフコンペが東蔵王ゴルフクラブで開催され、好スコアで終了したイズタ建機産業(株)伊豆田社長と、新光リース(株)渡辺社長が同スコアとなり、規定により伊豆田社長が優勝、渡辺社長が準優勝となりました。そして3位には㈱イブキ産業佐々木社長、ベスグロは中央機械リース(株)前田社長が入賞し終了致しました。

東北二課 菊地記

三笠クイズ VOL.18

【問題】 タテとヨコのかぎを解いて1~5の文字をつなげると、夏にちなんだ言葉が浮かんできます。さて何でしょう。

ヒント

ヨコのかぎ

ア、「スペイン」は英語。ではスペイン語で「スペイン」は。
イ、会の進行を受け持つ人。結婚式の○○○○○を引き受ける。
ウ、液体や固体が気体に変化すること。○○熱。
エ、他人の力。○○○本願。
オ、最後まで見届ける。確認をする。○○○○がつく。

タテのかぎ

A、平たい石を敷き詰めてあるところ。
B、あてが外れること。○○を喰う。
C、役に立つ優れた機械。文明の○○。
D、小麦粉を練って薄くのばし中に果物などを包み込んで蒸し焼きにした菓子。アップル○○。
E、さかいめ。かたわら。かけの○○。
F、故郷に○○○を飾るとは功を成し遂げて故郷に帰ること。
G、幸せな人に似て自分も幸福を得る。あの人に○○○○。

ア	1				
A	B	D	F	G	
	イ	2			
				ウ	3
	エ	5			
	オ	C	E		
			4		

【応募の方法】 官製ハガキにクイズの答えと住所、氏名、年齢、職業(会社名)をお書きのうえご応募ください。正解者には抽選の上10名様に記念品を差し上げます。

●あて先 〒101 東京都千代田区彼楽町1-4-3

三笠産業株式会社

「三笠ニュース」編集室

●締切り 1995年8月7日(月)消印有効

VOL.17の答えは「ミドリノヒ」でした。次の10名様に図書券をお送りしました。

安達明子様(新庄市) 本山和美様(多野郡) 瀬下俊幸様(柏崎市) 上野カナエ様(大分市)
土屋昌嗣様(瑞浪市) 尾関佐武郎様(綾瀬市) 梶彦也様(雨竜郡) 加藤達也様(三笠市)
西沢美智子様(南安曇郡) 大崎美香様(堺市)